

アムスルだより

No.47 2001年 1月10日

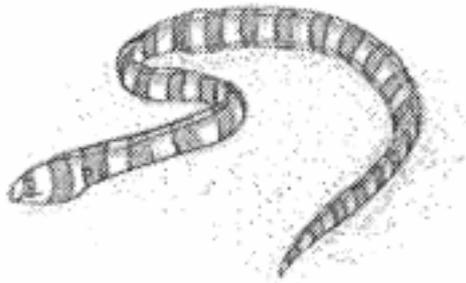
Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



もう一つの“ウミヘビ”

新年明けましておめでとうございます。

阿嘉島のまわりの海では、イイジマウミヘビやエラブウミヘビなどたくさんのウミヘビを目にするので、今年最初のアムスルだよりは、やはり干支えとにちなんで、このウミヘビの話をしようと思っていたのですが、残念ながらもうすでに10号で書いていました。そこで、何について書こうか、ちょっと困ったのですが、ありがたいことに、“ウミヘビ”という名前の別の生き物がいました。今回は、そのもう一つの“ウミヘビ”の話をしましょう。

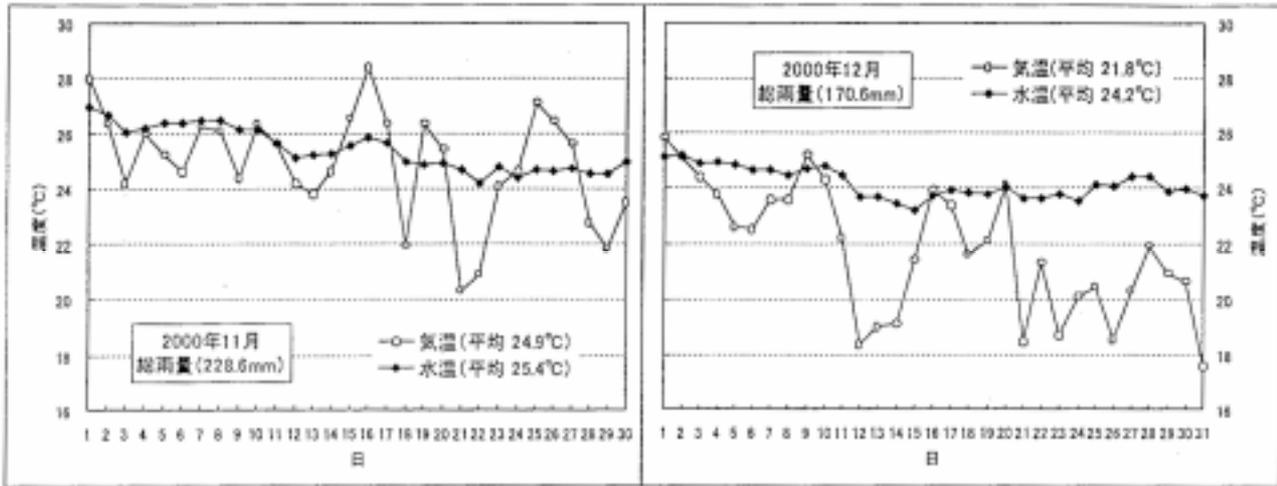
先ほど挙げたイイジマウミヘビなどは、ハブやアオダイショウと同じ爬虫類はちゅうるいの仲間ですが、これからお話しするもう一つの“ウミヘビ”は、実は魚の仲間、大まかに分けるとウナギの仲間(ウナギ目)になります。もっとも、この仲間には、ウナギはもちろん、アナゴやウツボも含まれるの

で、みなさんの目にする細長くてクネクネと泳ぐ魚の多くがこのグループに含まれてしまいます(ドジョウやアムスルだより41号で紹介したヨウジウオは別ですが)。

このウナギ目の中には、ウミヘビ科というグループがあり、英語ではスネーク・イール(ヘビウナギという意味)と呼ばれていますから、これこそが‘ウミヘビ’なのでしょうが、残念ながら、そのくらしぶりは今でもよく分かっていません。日本にはおよそ25種がすんでおり、その内17種ぐらひは、慶良間にすんでいてもおかしくないのですが、あまり見かけることはありません。その理由の一つは、この仲間が、かくれるのがとても上手なためかもしれません。ウミヘビは、砂や泥の海底にすんでいて、危険を感じるとあっという間に底にもぐり込んでしまうのです。以前、沖縄本島の一つ北にある与論島で1匹のウミヘビを捕まえたことがあるのですが、逃がしてやろうと海に入れたとたん、水しぶきがおさまらないうちに、すっかりその姿は砂の中に消えてしまいました。それは、まさに“目にもとまらぬ”速さでした。ウミヘビたちは、人間が近づくと素早く砂の中にかくれてしまっているのかもしれません。

あまり見つからないもう一つの理由は、

阿嘉新港での定点観測



ウミヘビたちが夜に動き回っているためかもしれません。本で調べてみると「ウミヘビ科は、主に夜行性で...」と書かれており、たしかに図鑑の写真も夜に撮影されたものが多いようです。昼間にくらべると、夜は観察する回数も少ないし、見える範囲も限られているので、もしもウミヘビたちが昼間は砂の中でじっとして夜にしか砂の上に出てこなければ、人間に見つけることはとても少ないでしょう。しかし、昼間に海底をつついてエサを食べていた(食べられていたのは砂地にすむハゼの仲間のような話)という話もありますから、本当のところはどうなのか、これから調べてみなければなりません。

このように魚のウミヘビたちについては、まだまだ分からないことだらけです。何を食べているのか、そして何に食べられているのか(石垣島では、爬虫類のウミヘビが魚のウミヘビを食べていたところが観察されています)、いつどこでどうやって卵を生んでいるのか、くわしく調べられていません。いったいどんな種類が慶良間の海にいらしているのかも、はっきりしないのです。もしも、みなさんが魚のウミヘビを見かけたら、ぜひ研究所にも知らせて下さい。

阿嘉島の海より

-ザトウクジラの回遊-

風が強い日が続き、外に出ると肌寒く感じられる季節になりましたね。上の定点観測のグラフをみていただければわかるように、気温は11月から暖かくなったり寒くなったりしながら全体的に下がり続けており、水温も比較的ゆっくりと下がり続けています。例年では、このまま気温は1月ごろに13度近くまで下がり、水温は2月ごろに20度前後まで下がります。まだまだ陸の上でも海の中でも(私たちにとっては)寒い日が続きます。

しかし、そんな冬の慶良間の海には毎年北極に近い海からザトウクジラが訪れます。今年も親子連れで来たり、恋愛を求めてやって来ます。私たちにとっては冷たくて荒れている海も、クジラにとっては暖かくて波穏やかな海に感じられるようです。では、合計で何頭くらい慶良間の海に来ているのでしょうか? 同じような姿に見えるザトウクジラも、実は尾ビレの形と裏側の白と黒の模様が一頭ごとに異なっているのです。今年の冬はじっくりと観察して数えてみたり、気に入ったクジラには名前をつけてあげるのも良いでしょう。そして、皆さんもクジラに負けじと外に出て元気に遊びましょう。